



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月12日

上場会社名 株式会社マルイチ産商 上場取引所 名
 コード番号 8228 URL http://www.maruichi.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 平野 敏樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 企画・管理部 (氏名) 清野 昌彦 TEL 026-285-4101
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	183,490	3.5	2,110	12.5	2,643	17.1	1,675	12.7
2020年3月期第3四半期	177,299	1.5	1,875	3.9	2,257	△0.2	1,486	2.2

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 1,966百万円 (25.6%) 2020年3月期第3四半期 1,565百万円 (13.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	75.91	—
2020年3月期第3四半期	67.40	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	72,328	23,585	31.9
2020年3月期	51,282	22,001	42.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 23,079百万円 2020年3月期 21,531百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	3.00	—	14.00	17.00
2021年3月期	—	3.00	—		
2021年3月期（予想）				13.00	16.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	240,000	4.0	1,900	1.1	2,400	0.9	1,500	15.1	68.01

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	23,121,000株	2020年3月期	23,121,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	1,045,822株	2020年3月期	1,065,716株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	22,068,603株	2020年3月期3Q	22,054,160株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化する中、政府や自治体の各種政策により一部に持ち直しの動きが見られましたが、11月以降の感染者急増に伴い国内外の経済活動の制限が拡大するなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。食品流通業界におきましては、外食産業や宿泊施設等の業務筋は引き続き厳しい状況にある一方、巣ごもり消費等により内食需要は拡大しておりますが、消費マインドの低下や節約志向の強まりが懸念されるなど、経営環境は予断を許さない状況が継続しております。

こうした環境下、当社グループは食のライフラインを担う地域のインフラという社会的使命を果たすべく、当社グループが策定した感染防止対策のガイドラインを徹底することで食品の安定供給を継続しております。

経営方針としましては、今年度を初年度とする中期経営計画「創造2022」で掲げた基本方針「人の成長を以て変革を成し遂げ、更なる飛躍のための創造を推進する」に基づき、成長戦略による事業規模の拡大と付加価値による収益力の向上に全社を挙げて取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は内食需要が堅調に推移したことで量販店への納品が伸長したことから1,834億90百万円（前年同期比3.5%増）となりました。利益面につきましては、売上高の増加に伴う売上総利益の増加に加え、新型コロナウイルス感染症対策費用が増加する一方でWEB会議の活用による旅費交通費の削減をはじめとする管理費の減少や、物量の増加に対して調達・配荷物流の適正化により物流コストの抑制に努めたことから、営業利益21億10百万円（前年同期比12.5%増）、経常利益26億43百万円（同17.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益16億75百万円（同12.7%増）となりました。

[セグメント別の概況]

※ 各セグメントの売上高については、セグメント間の内部売上高を除いて記載しております。

※ ※なお、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しておりますので、下記の前年同期比につきましては、前年同期の数値を変更後の報告セグメントの区分に組み替えた数値との比較となっております。

<水産事業セグメント>

水産部門はサンマの歴史的な不漁やコロナ禍で業務筋への販売が苦戦する中、産地・生産者の支援を目的とする政府補助事業を活用しながら養殖ブリ・カンパチ・タイを量販店へ提案し拡販を進めました。また最需要期の年末商戦において内食需要の高まりに合わせたサーモンやマグロの販売強化にて売上拡大を図りました。デイリー部門では自社開発商品と得意先との開発商品を基軸に販売拡大を推進し、フードサービス部門では水産素材を惣菜化した自社開発商品の開発と販売を進めました。以上のことから、売上高につきましては1,059億84百万円（前年同期比2.9%増）となりました。以上のことから、売上高につきましては1,059億84百万円（前年同期比2.9%増）となりました。

利益面につきましては、売上高の拡大による売上総利益の増加と長野県内の拠点機能見直し等の構造改革の推進による管理費の減少等により、営業利益は9億65百万円（同34.0%増）となりました。

<一般食品事業セグメント>

当社グループの水産品調達力を活かした缶詰製品等の自社商品開発や、重点顧客への生鮮素材を基軸とした販促提案等を推進しております。売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による内食需要が拡大する一方、年末の帰省や観光による長野県内への流入が減少した影響もあり231億96百万円（前年同期比2.3%減）となりました。

利益面につきましては、構内物流の生産性改善などコスト低減を図ったものの、消費者の節約志向から低価格競争が激化した影響等により、営業損失は25百万円（前年同期は2億36百万円の営業利益）となりました。

<畜産事業セグメント>

鳥インフルエンザの発生による国産鶏肉の供給減少の影響や、コロナ禍による業務筋への販売が引き続き苦戦したものの、内食需要の拡大による量販店向けの販売が好調に推移し、特に帰省自粛も相まって首都圏エリアへの売上が伸長したことから、売上高につきましては295億2百万円（前年同期比12.3%増）となりました。

利益面につきましては、売上高の拡大による売上総利益の増加等により、営業利益は4億79百万円（同4.9%増）となりました。

<丸水長野県水グループセグメント>

業務筋を主要顧客とする子会社の販売が苦戦したものの、畜産と冷凍食品部門の売上が内食需要の拡大もあり好調に推移したことと、長野商圏におけるグループ内での連携強化による主要顧客との取組み強化により、売上高につきましては240億51百万円（前年同期比3.2%増）となりました。

利益面につきましては、売上高の増加に伴う売上総利益の増加等により、営業利益は5億72百万円（同34.7%増）となりました。

<その他（物流・冷蔵倉庫事業、OA機器・通信機器販売及び保険代理店事業）>

子会社マルイチ・ロジスティクス・サービス(株)は、当社グループの物流業務・冷蔵倉庫事業の品質向上とローコスト体制の構築を、グループ内の各事業と連携しながら推進しております。

業績につきましては、売上高は7億54百万円（前年同期比19.9%減）、営業利益は1億19百万円（同226.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は723億28百万円となり、前連結会計年度末と比較して210億46百万円の増加となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金が146億53百万円、商品及び製品が18億1百万円増加したことによります。

負債は487億42百万円となり、前連結会計年度末と比較して194億61百万円の増加となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金が184億76百万円増加したことによります。

純資産合計は235億85百万円となり、前連結会計年度末と比較して15億84百万円の増加となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の42.0%から31.9%に減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の通期の連結業績予想につきましては、現時点では2020年5月12日に発表しました業績予想に変更はありません。

※ 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,836	11,863
受取手形及び売掛金	17,919	32,573
商品及び製品	5,244	7,046
仕掛品	12	5
原材料及び貯蔵品	185	216
その他	2,683	3,623
貸倒引当金	△39	△50
流動資産合計	34,842	55,279
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,913	2,872
土地	7,494	7,443
その他(純額)	947	922
有形固定資産合計	11,355	11,238
無形固定資産		
のれん	175	109
ソフトウェア仮勘定	247	857
その他	111	136
無形固定資産合計	533	1,103
投資その他の資産		
投資有価証券	2,714	3,065
退職給付に係る資産	142	213
その他	1,850	1,624
貸倒引当金	△155	△197
投資その他の資産合計	4,550	4,707
固定資産合計	16,440	17,049
資産合計	51,282	72,328
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,772	39,249
短期借入金	1,200	1,200
1年内返済予定の長期借入金	250	287
未払法人税等	345	410
賞与引当金	609	323
資産除去債務	3	3
その他	3,232	4,606
流動負債合計	26,414	46,079
固定負債		
長期借入金	770	661
役員株式給付引当金	64	70
債務保証損失引当金	54	54
退職給付に係る負債	911	845
資産除去債務	62	63
その他	1,003	967
固定負債合計	2,867	2,663
負債合計	29,281	48,742

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,719	3,719
資本剰余金	3,388	3,388
利益剰余金	15,452	16,751
自己株式	△1,143	△1,124
株主資本合計	21,417	22,735
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	403	601
退職給付に係る調整累計額	△289	△257
その他の包括利益累計額合計	114	344
非支配株主持分	470	506
純資産合計	22,001	23,585
負債純資産合計	51,282	72,328

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	177,299	183,490
売上原価	158,014	163,507
売上総利益	19,284	19,983
販売費及び一般管理費	17,408	17,872
営業利益	1,875	2,110
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	95	177
受取賃貸料	170	163
その他	149	248
営業外収益合計	416	590
営業外費用		
支払利息	15	25
固定資産除却損	10	5
貸倒引当金繰入額	—	0
その他	9	26
営業外費用合計	35	58
経常利益	2,257	2,643
特別利益		
固定資産売却益	34	—
特別利益合計	34	—
税金等調整前四半期純利益	2,291	2,643
法人税、住民税及び事業税	495	749
法人税等調整額	233	157
法人税等合計	728	906
四半期純利益	1,563	1,736
非支配株主に帰属する四半期純利益	76	61
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,486	1,675

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	1,563	1,736
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△16	198
退職給付に係る調整額	18	31
その他の包括利益合計	1	230
四半期包括利益	1,565	1,966
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,488	1,905
非支配株主に係る四半期包括利益	76	61

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	水産事業	一般食品 事業	畜産事業	丸水長野 県水グル ープ	計				
売上高									
外部顧客への売上高	103,044	23,732	26,272	23,307	176,357	941	177,299	—	177,299
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,479	82	1,172	67	2,801	2,539	5,341	△5,341	—
計	104,524	23,814	27,445	23,375	179,159	3,480	182,640	△5,341	177,299
セグメント利益	720	236	457	425	1,839	36	1,875	—	1,875

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流・冷蔵倉庫事業、
OA機器・通信機器販売・保険の代理店事業等を含んでおります。

2. セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	水産事業	一般食品 事業	畜産事業	丸水長野 県水グル ープ	計				
売上高									
外部顧客への売上高	105,984	23,196	29,502	24,051	182,735	754	183,490	—	183,490
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,623	59	1,234	171	3,089	2,460	5,549	△5,549	—
計	107,608	23,255	30,737	24,223	185,825	3,215	189,040	△5,549	183,490
セグメント利益又は 損失(△)	965	△25	479	572	1,991	119	2,110	—	2,110

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流・冷蔵倉庫事業、
OA機器・通信機器販売・保険の代理店事業等を含んでおります。

2. セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間の期首より、当社グループ内の経営管理体制の変更に伴い、信田缶詰(株)の事業
については、報告セグメントを「水産事業」から「一般食品事業」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分で記載しております。